

株式会社エコリカ  
代表取締役社長**宗廣 宗三さん**

1986年、コンピューター関連商社「株式会社エム・エス・ジー」設立。  
2003年、環境保全と事業活動の両立を基本理念とした「株式会社エコリカ」設立。使用済みインクカートリッジの回収、リユース・リサイクル事業を日本で初めて手掛ける。この活動が評価され09年、第18回地球環境大賞部門賞、10年、第1回「エコマークアワード」において銀賞を受賞。照明の省エネにも注目し、09年からLED照明事業も展開。

作家 堀屋 太一さん

1960年、通商産業省(現経済産業省)入省。在職中は日本万国博覧会企画部に所属し、沖縄海洋博や「サンシンポジウム」を推進。75年、「油断」で作家デビューし、78年退官。セビリア万国博覧会日本政府館、上海万国博覧会日本産業館を総合プロデュース。『団塊の世代』の新語を生んだ同名作をはじめ、「知恵革命」「平成三十年」「三人の二代目」など著書多数。

郵便および通信に関する資料を展示・紹介する「郵政博物館(東京都墨田区)」で撮影

**はがきは  
表現手段ですね**  
誰しもに開かれた  
受け継ぎたいです  
日本の大切な文化  
これからも



「はがきが持つ  
『残る』『広がる』  
という魅力」

**はがきが持つ  
『残る』『広がる』  
という魅力**  
堀屋 はがきの名文コンクールは、おかげさまで、今年で3回目となりました。宗廣さんの会社には、今年からご支援いただいています。3回までの受賞作を読まれて、どう感じていらっしゃいますか?

**宗廣** 恥ずかしいんです、文字が読めなくなるくらい、泣いてしまいました。

はがきが公式に発行されはじめたのは1873(明治6)年のこと。以来、思いの丈を込めた数多のはがきが、人々の間を行き交ってきました。それは場所と世代を超えて今も続く、古くて新しい通信手段です。はがき文化を未来に受け継ぐべく、実現した堀屋太一さんと、その趣旨と共に賛同協賛を始めた、インクカートリッジのリサイクルを手掛けるエコリカ社長、宗廣宗三さんが、はがきの魅力を大いに語り合います。

**宗廣** 私は、はがきを家族で共有できるところも好きなんです。今、SNSが普及して、メールやメッセージアプリが日常的なコミュニケーション手段になりましたが、それらは基本的に「二対」のやりとりです。対してはがきには、「二対」(自然数)といえる広がりがあります。例えば家の主人宛てに届いたはがきを、奥さんや子どもが一緒に楽しむことがあります。会話のきっかけにもなります。

**堀屋** 書かれた情報のみならず、はがきというモノが「残る」という点も、SNSにはない魅力ですね。

**宗廣** これからも受け継いでいきたい日本の大切な文化だと思います。

「リサイクルも  
続けていくことが大切

**堀屋** まもなく、年間で一番はがきが書かれる年賀状の季節がやってきます。エコリカのリサイクルリンクが最も売れるのもこの季節ですか?

**宗廣** はい。ただ、近年はやはりS



**宗廣** 私が元々コンピューター関連の商社を経営している関係で、約20年前に、ラスベガスの国際ショ会议上で、リサイクルインクを初めて目にしました。当時日本には、企業用などのリサイクルトナーはあったのですが、家庭用のインク

**堀屋** 長年ベンチャーサポートをしてきた私は、起業家に必要な資質は、一つは、経営者としての勇気。宗廣さんはこの二つともお持ちですね。リサイクルインクを世に出すには様々な抵抗があつたと推察しますが、勇気がおありだった。

**宗廣** 2004年に工場を始めた時から、工場で高品質な商品を、という思いでやつきました。エコリカを始めた時から、エコで高品質な商品を、といふことを、お客様にとっては、エコノミーであること。高品質とは、純正イン

# 「はがき」の言葉は、どうしてあれだけ、伝わるのだろう――。

すから(笑)。家族や大切な人への新しい思いをはじめ、自分の経験を重ね合わせたくなるような普遍的な感情が、身近な言葉の中に凝縮されているなどと思います。それから私は、生まれ育った郡上八幡(岐阜県)の田舎を思い出します。受賞されたはがきには、日本の原風景が書かれている気がします。

今年のテーマは、「わたしの願い」

をリサイクルしている会社はなかなか進んでるのが残念ではあります。SNSが普及して、メールやメッセージアプリが日常的なコミュニケーション手段になりましたが、それらは基本的に「二対」のやりとりです。対してはがきには、「二対」(自然数)といえる広がりがあります。例えば家の主人宛てに届いたはがきを、奥さんや子どもが一緒に楽しむことがあります。会話のきっかけにもなります。

**堀屋** 書かれた情報のみならず、はがきというモノが「残る」という点も、SNSにはない魅力ですね。

**宗廣** これからも受け継いでいきたい日本の大切な文化だと思います。

**堀屋** はがきの名文コンクールは、確かに確保すること。また安全性にもこだわっています。エコリカは、誤って飲んでしまう心配がないように、商品には、インクカートリッジの2割程度をリユース・リサイクルしています。この割合を増やしていく必要があります。だからやがきの名文コンクールを生み出すには、はがき文化の素晴らしさを伝えていくためにも、柔軟な発想を取り組んでいただきたいです。



詳細はコチラ